

2025年6月期 決算短信〔日本基準〕（非連結）

2025年8月12日

上場会社名	株式会社かんなん丸	上場取引所	東
コード番号	7585	URL	http://www.kannanmaru.co.jp
代表者	(役職名) 代表取締役社長	(氏名)	野々村 孝志
問合せ先責任者	(役職名) 取締役管理部長	(氏名)	宮永 一彦
TEL	048-815-6699		
定時株主総会開催予定日	2025年9月26日	配当支払開始予定日	-
有価証券報告書提出予定日	2025年9月25日		
決算補足説明資料作成の有無	無		
決算説明会開催の有無	無		

（百万円未満切捨て）

1. 2025年6月期の業績（2024年7月1日～2025年6月30日）

（1）経営成績

（%表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年6月期	1,871	13.5	△139	-	△136	-	△218	-
2024年6月期	1,649	23.5	△180	-	△172	-	△206	-

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2025年6月期	△57.33	-	△40.6	△8.2	△7.5
2024年6月期	△54.21	-	△27.5	△9.9	△11.0

（参考）持分法投資損益 2025年6月期 一百万円 2024年6月期 一百万円

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年6月期	1,539	426	27.7	111.82
2024年6月期	1,782	649	36.5	170.50

（参考）自己資本 2025年6月期 426百万円 2024年6月期 649百万円

（3）キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2025年6月期	△53	△104	△43	366
2024年6月期	△88	△316	264	567

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向	純資産 配当率
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2024年6月期	-	0.00	-	0.00	0.00	-	-	-
2025年6月期	-	0.00	-	0.00	0.00	-	-	-
2026年6月期（予想）	-	-	-	-	-	-	-	-

（注）2026年6月期の配当予想につきましては、現時点では未定としております。

3. 2026年6月期の業績予想（2025年7月1日～2026年6月30日）

（%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	980	3.3	△10	-	△12	-	△14	-	△3.67
通期	2,050	9.5	8	-	9	-	5	-	1.39

※ 注記事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(2) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数

2025年6月期	4,351,308株	2024年6月期	4,351,308株
2025年6月期	539,832株	2024年6月期	539,812株
2025年6月期	3,811,485株	2024年6月期	3,811,506株

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項については、〔添付資料〕P4「1. 経営成績等の概況(4) 今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 今後の見通し	4
(5) 継続企業の前提に関する重要事象等	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	4
3. 財務諸表及び主な注記	5
(1) 貸借対照表	5
(2) 損益計算書	7
(3) 株主資本等変動計算書	8
(4) キャッシュ・フロー計算書	10
(5) 財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(会計上の見積りの変更)	11
(セグメント情報)	11
(1株当たり情報)	14
(重要な後発事象)	14

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当事業年度におけるわが国経済は、社会経済活動の正常化やインバウンド（訪日外国人）需要の拡大等を背景に、緩やかな回復傾向が続きました。一方で、ウクライナや中東情勢の不安定な状態の長期化、米国・中国をはじめとする海外経済動向の不透明感、ならびにエネルギー・原材料価格の高騰や為替変動の影響、さらには物価高による個人消費への影響など、依然として先行き不透明な状況が続いております。

外食業界においても、来店客数および売上高は持ち直しの傾向がみられましたが、米を始めとする主要原材料の価格の高騰、エネルギーコストの上昇、賃金上昇に伴う人件費の増加等、あらゆるコスト面での負担増加が継続し、事業環境は依然として厳しい状況となっております。

このような経営環境の下、当期は業態ポートフォリオの最適化に注力いたしました。前期末より業態転換のため閉店していた「日本海庄や三郷中央店」は、2024年7月に「じんべえ太郎」「VANSAN」の2店舗として再開店。以降、第2四半期に「じんべえ太郎北鴻巣店」、第3四半期に「じんべえ太郎東浦和店」および当社独自業態「カラオケkobanちゃん」、第4四半期には「じんべえ太郎野木店」「じんべえ太郎雀宮店」を新たに開店し、営業利益率低下店舗または不採算店舗の業態転換を推進してまいりました。

これらの業態転換は、地域特性に応じた顧客ニーズへの的確な対応を図るとともに、幅広い顧客層の取り込みによる集客力の向上を目的としております。加えて、料理人の人材不足や人件費の高騰といった構造的課題への対応を進めるほか、視認性に優れた店舗空間の設計により、業務効率の改善を図っております。

さらに、モバイルオーダーの導入や接客手法の見直しを通じて、利便性の向上および顧客満足度の最大化を目指しております。

また、刷新のうえ再開した株主優待制度につきましては、2025年4月より再開後初となる株主様向けご優待飲食券の進呈を完了し、株主様をはじめとする多くのお客様の来店促進に寄与しております。

なお、2024年9月30日に開示いたしました「上場維持基準の適合に向けた計画に基づく進捗状況について」に記載のとおり、主要株主との対話を積極的に推進し、流通株式数の増加に向けた取り組みを継続しております。

今後も、株価の上昇および流通株式数の拡大の両面から施策を講じ、上場維持基準の達成ならびに持続的な成長と企業価値の向上を目指してまいります。

当社は顧客満足度の向上と企業価値の持続的な向上に向けて、着実に取り組んでまいります。

当事業年度末の店舗数は、大衆割烹「庄や」10店舗、「日本海庄や」2店舗、カラオケルーム「kobanちゃん」1店舗、大衆すし酒場「じんべえ太郎」13店舗、Italian Kitchen「VANSAN」4店舗、女性専用AIパーソナルジム「FURDI」2店舗の合計32店舗となっております。

以上により、当事業年度の業績は、売上高1,871,516千円（前期比13.5%増）、売上総利益1,295,572千円（同13.5%増）、営業損失は139,905千円（前期は営業損失180,662千円）となりました。

経常損失は136,830千円（前期は経常損失172,101千円）となり、減損損失等による特別損失70,817千円を計上したことにより、税引前当期純損失は207,648千円（前期は税引前当期純損失198,801千円）となり、当期純損失は218,524千円（前期は当期純損失206,628千円）となりました。

セグメントの業績については、次のとおりであります。

	料理飲食事業	その他
売上高 (前年同期比)	1,829,149千円 (11.9%増)	42,367千円 (196.3%増)
セグメント利益又は損失(△) (前年同期比)	61,456千円 (203.6%増)	△16,965千円 (-)

(2) 当期の財政状態の概況

資産、負債および純資産の状況

(資産)

当事業年度末の資産合計は1,539,769千円となりました。流動資産合計は、前事業年度末に比べて195,682千円減少し、601,870千円となりました。その主な要因は、現金及び預金が200,909千円減少したことによるものです。また、固定資産合計は、前事業年度末に比べて47,126千円減少し、937,898千円となりました。その主な要因は、建物等の有形固定資産が12,306千円減少したことによるものです。

(負債)

当事業年度末における負債合計は1,113,554千円となりました。流動負債合計は、前事業年度末に比べて6,685千円増加し、394,471千円となりました。その主な要因は、未払金の減少37,618千円等によるものです。固定負債合計は、前事業年度末に比べて25,836千円減少し719,082千円となりました。その主な要因は、長期借入金の減少50,199千円等によるものです。

(純資産)

当事業年度末における純資産合計は前事業年度末に比べて223,657千円減少し、426,215千円となりました。その主な要因は、当期純損失218,524千円によるものです。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当事業年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べて200,912千円減少となり、366,505千円となりました。当事業年度における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度において営業活動の結果使用した資金は53,139千円となりました。これは主に、税引前当期純損失207,648千円、減価償却費68,916千円、減損損失60,893千円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度において投資活動の結果使用した資金は104,033千円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出114,407千円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度において財務活動の結果支出した資金は43,739千円となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出50,199千円等によるものであります。

(参考) キャッシュ・フロー関連指標の推移

	2023年6月期	2024年6月期	2025年6月期
自己資本比率 (%)	50.8	36.5	27.7
時価ベースの自己資本比率 (%)	87.5	89.6	101.5

自己資本比率：自己資本/総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額/総資産

※株式時価総額は自己株式を除く発行済株式数をベースに計算しております。

(4) 今後の見通し

前期においては新規出店および業態転換を進め、直近4年間で新規開店・改装を含む計17店舗への投資を実施いたしました。中でも、自社ブランドである「大衆すし酒場 じんべえ太郎」は、当社運営店舗において最大の業態となっております。

コロナ禍を経て、飲食店の利用形態は、少人数での来店やシニア層による早い時間帯の利用など、生活スタイルの変化に伴い大きく変化しております。加えて、原材料費や人件費等の各種コストの上昇により、当社を取り巻く経営環境は依然として厳しい状況が続いております。

こうした状況下において、当社は業態ポートフォリオの再構築と最適化を進めるとともに、原点である「より多くのお客様に飲食を通じて感動・満足を提供し続ける」という合言葉に、QSSCA（品質・サービス・スピード・清潔・雰囲気）の向上による既存店の活性化に取り組んでおります。

また、コスト上昇への対応として、付加価値の高い商品の開発を強化し、価格に対する納得感を提供することで、選ばれ続ける店舗づくりを推進してまいります。自社ブランド「じんべえ太郎」においては、独自の商品開発、オペレーション設計、価格戦略を通じて、利用しやすい店舗運営を目指しております。

なお、前期末には、今後の収益性向上を見据え、進行期において採算性が低下する見込みの店舗について、将来リスクを早期に解消するための減損損失を計上いたしました。当社は、これを収益構造を再構築するための重要な節目と位置づけ、既存店の競争力強化や自社ブランド価値の向上に注力してまいります。今後も、収益力の向上に向けて全社一丸となって取り組んでまいります。

翌事業年度の業績見通しにつきましては、売上高2,050百万円、経常利益9百万円、当期純利益5百万円を見込んでおります。

(5) 継続企業の前提に関する重要事象等

2025年6月期は期首計画外の業態転換を含め7店舗のリニューアルを進めました。業態転換時の休業期間、また開店費用の負担増もありましたが、当社の業績は経常利益ベースにおいて増収増益の結果となっております。しかしながら、既存店のテコ入れと業態転換により業績改善は進んでおりますが、黒字転換は果たせておらず、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象または状況が継続しております。

このような状況を解消するために、当社は、事業の収益改善と財務安定化を目的として下記の改善策を実施してまいります。

まず事業の収益改善に関しては、地域的に苦戦している店舗のテコ入れを終え、自社ブランドである「じんべえ太郎」ではメニュー、オペレーションのブラッシュアップを行ってまいります。集客力の向上とともに、メニュー改定、オペレーション効率化等の基本施策を一つ一つ実施しております。コスト改善に関しては、メニューの適正化とロス管理、シフト管理等きめ細かいコスト管理を徹底してまいります。

また、好調なVANSAN業態においては本部指導の完遂による業態ポテンシャルの最大化に努めること、大庄ブランドにおいても、更なる収益改善の取組みを継続してまいります。

次に財務として業態転換による投資は一段落し、投資した店舗の安定化と収益力の向上のため、業績改善を進め、保有現預金に関して一定額のキャッシュ水準の維持に努めております。

当社は、当事業年度末現在で、現預金残高516,629千円、純資産残高426,215千円を有しており、安定的な財政状態を維持しております。今後も、これを基盤として上記対応策を進めていくことにより、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社の利害関係者の多くは、国内の株主、債権者、取引先等であり、国内同業他社との比較可能性を考慮し、会計基準につきましては日本基準を採用しております。

なお、国際会計基準の適用につきましては、国内外の諸情勢を考慮のうえ、適切に対応していく方針であります。

3. 財務諸表及び主な注記

(1) 貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年6月30日)	当事業年度 (2025年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	717,539	516,629
売掛金	41,761	46,914
原材料	12,917	14,456
前払費用	19,425	19,980
未収収益	3,021	1,921
従業員に対する短期債権	601	1,055
その他	2,285	911
流動資産合計	797,553	601,870
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,265,400	1,298,327
減価償却累計額	△835,666	△880,900
建物（純額）	429,734	417,427
車両運搬具	1,071	1,071
減価償却累計額	△913	△992
車両運搬具（純額）	157	78
工具、器具及び備品	204,676	209,949
減価償却累計額	△148,095	△163,878
工具、器具及び備品（純額）	56,580	46,071
土地	213,034	213,034
リース資産	—	4,908
減価償却累計額	—	△4,268
リース資産（純額）	—	640
有形固定資産合計	699,506	677,252
無形固定資産		
電話加入権	12,955	12,955
ソフトウェア	—	1,269
無形固定資産合計	12,955	14,224
投資その他の資産		
投資有価証券	34,124	18,178
出資金	20	20
従業員に対する長期貸付金	189	408
長期前払費用	15,252	6,441
差入保証金	197,574	195,714
保険積立金	30,912	31,367
その他	635	410
貸倒引当金	△6,145	△6,119
投資その他の資産合計	272,563	246,421
固定資産合計	985,025	937,898
資産合計	1,782,578	1,539,769

（単位：千円）

	前事業年度 (2024年6月30日)	当事業年度 (2025年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	42,669	47,086
短期借入金	100,000	100,000
1年内返済予定の長期借入金	43,426	50,199
リース債務	—	120
未払金	131,988	94,369
未払費用	27,757	19,987
未払法人税等	4,890	4,730
前受金	647	584
預り金	19,370	21,841
店舗閉鎖損失引当金	73	37
賞与引当金	1,100	1,100
資産除去債務	3,312	7,668
その他	12,552	46,747
流動負債合計	387,786	394,471
固定負債		
長期借入金	644,545	594,346
資産除去債務	88,050	108,147
繰延税金負債	12,323	16,005
リース債務	—	584
固定負債合計	744,918	719,082
負債合計	1,132,705	1,113,554
純資産の部		
株主資本		
資本金	50,000	50,000
資本剰余金		
資本準備金	88,500	88,500
その他資本剰余金	225,100	225,100
資本剰余金合計	313,600	313,600
利益剰余金		
利益準備金	24,780	24,780
その他利益剰余金		
別途積立金	800,000	800,000
繰越利益剰余金	73,764	△144,759
利益剰余金合計	898,544	680,020
自己株式	△622,159	△622,168
株主資本合計	639,984	421,451
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	9,888	4,764
評価・換算差額等合計	9,888	4,764
純資産合計	649,873	426,215
負債純資産合計	1,782,578	1,539,769

（2）損益計算書

（単位：千円）

	前事業年度 （自 2023年7月1日 至 2024年6月30日）	当事業年度 （自 2024年7月1日 至 2025年6月30日）
売上高	1,649,628	1,871,516
売上原価		
期首原材料棚卸高	12,897	12,917
当期原材料仕入高	508,603	577,483
合計	521,500	590,401
期末原材料棚卸高	12,917	14,456
売上原価合計	508,583	575,944
売上総利益	1,141,045	1,295,572
販売費及び一般管理費		
販売促進費	5,947	4,196
役員報酬	60,520	45,660
給料及び手当	543,025	614,539
賞与及び手当	13,490	13,850
法定福利費	66,157	77,821
交際費	548	376
支払ロイヤリティー	39,818	44,467
消耗品費	43,943	38,896
水道光熱費	101,450	108,879
地代家賃	180,627	194,736
減価償却費	57,756	68,916
その他	208,421	223,138
販売費及び一般管理費合計	1,321,707	1,435,477
営業損失（△）	△180,662	△139,905
営業外収益		
受取利息	16	246
受取配当金	1,661	301
協力金収入	—	1,400
補助金収入	—	980
保険解約返戻金	7,789	—
投資有価証券償還益	—	4,272
貸倒引当金戻入額	6	26
その他	1,494	1,202
営業外収益合計	10,968	8,429
営業外費用		
支払利息	2,262	5,136
その他	145	218
営業外費用合計	2,407	5,355
経常損失（△）	△172,101	△136,830
特別利益		
補助金収入	5,262	—
特別利益合計	5,262	—
特別損失		
減損損失	21,855	60,893
店舗閉鎖損失	10,106	9,923
特別損失合計	31,962	70,817
税引前当期純損失（△）	△198,801	△207,648
法人税、住民税及び事業税	5,183	5,464
法人税等調整額	2,643	5,411
法人税等合計	7,826	10,876
当期純損失（△）	△206,628	△218,524

（3）株主資本等変動計算書

前事業年度（自 2023年7月1日 至 2024年6月30日）

（単位：千円）

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計
					別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	50,000	88,500	225,100	313,600	24,780	1,280,000	△199,606	1,105,173
当期変動額								
別途積立金の取崩						△480,000	480,000	—
当期純損失（△）							△206,628	△206,628
自己株式の取得								
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								
当期変動額合計	—	—	—	—	—	△480,000	273,371	△206,628
当期末残高	50,000	88,500	225,100	313,600	24,780	800,000	73,764	898,544

	株主資本		評価・換算差額等	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	
当期首残高	△622,129	846,644	8,143	854,787
当期変動額				
別途積立金の取崩		—		—
当期純損失（△）		△206,628		△206,628
自己株式の取得	△30	△30		△30
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			1,744	1,744
当期変動額合計	△30	△206,659	1,744	△204,914
当期末残高	△622,159	639,984	9,888	649,873

当事業年度（自 2024年7月1日 至 2025年6月30日）

（単位：千円）

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金		利益剰余金合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	50,000	88,500	225,100	313,600	24,780	800,000	73,764	898,544
当期変動額								
別途積立金の取崩						—	—	—
当期純損失（△）							△218,524	△218,524
自己株式の取得								
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								
当期変動額合計	—	—	—	—	—	—	△218,524	△218,524
当期末残高	50,000	88,500	225,100	313,600	24,780	800,000	△144,759	680,020

	株主資本		評価・換算差額等	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	
当期首残高	△622,159	639,984	9,888	649,873
当期変動額				
別途積立金の取崩		—		—
当期純損失（△）		△218,524		△218,524
自己株式の取得	△8	△8		△8
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			△5,124	△5,124
当期変動額合計	△8	△218,532	△5,124	△223,657
当期末残高	△622,168	421,451	4,764	426,215

（4）キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前事業年度 （自 2023年7月1日 至 2024年6月30日）	当事業年度 （自 2024年7月1日 至 2025年6月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純損失（△）	△198,801	△207,648
減価償却費	57,756	68,916
減損損失	21,855	60,893
店舗閉鎖損失	10,106	9,923
長期前払費用償却額	3,999	5,028
補助金収入	△5,262	△980
協力金収入	—	△1,400
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△6	△26
保険解約返戻金	△7,789	—
投資有価証券償還益	—	△4,272
受取利息及び受取配当金	△1,678	△547
支払利息	2,262	5,136
売上債権の増減額（△は増加）	△1,905	△5,153
棚卸資産の増減額（△は増加）	△123	△1,538
仕入債務の増減額（△は減少）	3,059	4,416
その他	27,882	22,661
小計	△88,644	△44,590
利息及び配当金の受取額	1,678	467
利息の支払額	△2,262	△5,106
補助金の受取額	5,262	980
法人税等の支払額	△4,916	△4,890
営業活動によるキャッシュ・フロー	△88,882	△53,139
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△50,000	—
有形固定資産の取得による支出	△269,619	△114,407
資産除去債務の履行による支出	△13,015	△3,076
投資有価証券の取得による支出	△643	—
投資有価証券の売却による収入	—	12,718
貸付金の回収による収入	295	997
敷金及び保証金の差入による支出	△5,630	△2,700
敷金及び保証金の回収による収入	6,088	4,560
保険積立金の積立による支出	△2,524	△455
保険積立金の解約による収入	19,640	—
その他	△749	△1,670
投資活動によるキャッシュ・フロー	△316,158	△104,033
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	300,000	300,000
短期借入金の返済による支出	△200,000	△300,000
長期借入れによる収入	200,000	6,773
長期借入金の返済による支出	△33,692	△50,199
リース債務の返済による支出	△2,142	△88
自己株式の取得による支出	△30	△8
配当金の支払額	△37	△216
財務活動によるキャッシュ・フロー	264,097	△43,739
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△140,944	△200,912
現金及び現金同等物の期首残高	708,361	567,417
現金及び現金同等物の期末残高	567,417	366,505

（5）財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（会計上の見積りの変更）

（資産除去債務の見積額の変更）

当事業年度において、店舗の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務として計上していた資産除去債務について、直近の原状回復実績等の新たな情報の入手に伴い、資産除去債務を26,604千円積み増しております。

なお、この変更による当事業年度の損益に与える影響はありません。

（セグメント情報）

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、主として「料理飲食事業」を行っております。料理飲食事業は、株式会社大庄のFCとして手作りの和食料理をメインとした「庄や」、「日本海庄や」、株式会社VANSANのFCとしてイタリアンキッチン「VANSAN」、当社独自業態として大衆すし酒場「じんべえ太郎」、カラオケ「kobanちゃん」の運営等を行っております。

(2) 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理方法は、財務諸表作成のために採用している会計処理の方法と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報

前事業年度（自 2023年7月1日 至 2024年6月30日）

（単位：千円）

	報告セグメント		その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	財務諸表 計上額 (注) 3
	料理飲食事業	計				
売上高						
外部顧客への売上高	1,635,331	1,635,331	14,297	1,649,628	—	1,649,628
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,635,331	1,635,331	14,297	1,649,628	—	1,649,628
セグメント利益又は損失 (△)	20,240	20,240	△18,543	1,697	△182,360	△180,662
セグメント資産	528,413	528,413	31,916	560,329	1,222,248	1,782,578
その他の項目						
減価償却費	49,156	49,156	3,193	52,350	5,406	57,756
有形固定資産及び無形 固定資産の増加額	232,234	232,234	31,208	263,443	—	263,443

（注）1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「FURDI」事業を含んでおります。

2. 調整額は、以下のとおりであります。

(1)セグメント利益又は損失（△）の調整額△182,360千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る一般管理費であります。

(2)セグメント資産の調整額1,222,248千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。

3. セグメント利益又は損失（△）は、財務諸表の営業損失と調整を行っております。

当事業年度（自 2024年7月1日 至 2025年6月30日）

（単位：千円）

	報告セグメント		その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	財務諸表 計上額 (注) 3
	料理飲食事業	計				
売上高						
外部顧客への売上高	1,829,149	1,829,149	42,367	1,871,516	—	1,871,516
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,829,149	1,829,149	42,367	1,871,516	—	1,871,516
セグメント利益又は損失 (△)	61,456	61,456	△16,965	44,490	△184,395	△139,905
セグメント資産	656,786	656,786	9,561	666,347	873,421	1,539,769
その他の項目						
減価償却費	59,958	59,958	4,988	64,946	3,969	68,916
有形固定資産及び無形 固定資産の増加額	102,986	102,986	1,175	104,161	2,130	106,291

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「FURDI」事業を含んでおります。

2. 調整額は、以下のとおりであります。

(1)セグメント利益又は損失（△）の調整額△184,395千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る一般管理費であります。

(2)セグメント資産の調整額873,421千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。

3. セグメント利益又は損失（△）は、財務諸表の営業損失と調整を行っております。

【関連情報】

前事業年度（自 2023年7月1日 至 2024年6月30日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当事業年度（自 2024年7月1日 至 2025年6月30日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前事業年度（自 2023年7月1日 至 2024年6月30日）

(単位：千円)

	報告セグメント		その他 (注) 1	合計
	料理飲食事業	計		
減損損失	21,855	21,855	—	21,855

(注) 1. 「その他」の金額は、「FURDI」事業に係るものであります。

当事業年度（自 2024年7月1日 至 2025年6月30日）

(単位：千円)

	報告セグメント		その他 (注) 1	合計
	料理飲食事業	計		
減損損失	31,562	31,562	32,204	63,767

(注) 1. 「その他」の金額は、「FURDI」事業に係るものであります。

2. 店舗閉鎖損失に含まれる減損損失2,873千円を料理飲食事業セグメントに含めております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

（1株当たり情報）

	前事業年度 （自 2023年7月1日 至 2024年6月30日）	当事業年度 （自 2024年7月1日 至 2025年6月30日）
1株当たり純資産額	170円50銭	111円82銭
1株当たり当期純損失（△）	△54円21銭	△57円33銭

（注）1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 （自 2023年7月1日 至 2024年6月30日）	当事業年度 （自 2024年7月1日 至 2025年6月30日）
1株当たり当期純損失（△）		
当期純損失（△）（千円）	△206,628	△218,524
普通株主に帰属しない金額（千円）	—	—
普通株式に係る当期純損失（△）（千円）	△206,628	△218,524
期中平均株式数（株）	3,811,506	3,811,485

（重要な後発事象）

該当事項はありません。